

平成29年度 東区地域活性化支援事業

細事業名	校区防災研修会		
担当課	託麻まちづくりセンター、東部まちづくりセンター、秋津まちづくりセンター	事業費	519千円
地域・課題ニーズと見込まれる効果・事業内容			
<p>【地域の現状・課題・ニーズ】</p> <p>災害対応において行政の責任は大きいですが、一方で、熊本地震のような大災害では行政による対応には限界があり、地域住民自身による自助、地域コミュニティにおける共助の役割が大いに期待される。まずは、住民一人ひとりが防災に対する意識を高め、自らの命と生活を守るようにすることが肝要であり、地域コミュニティにおける自助・共助の意識を醸成させることが地域共通の課題となっている。</p>			
<p>【事業目的・概要(課題解決のための方策)】</p> <p>(目 的) 地域コミュニティにおける自助・共助の意識を醸成させることを目的とする。</p> <p>(内 容) 校区ごとに防災士(日本防災士会熊本県支部)等による防災研修会の開催 ・熊本地震での防災士の活動 ・先進的な自治会の取り組み ・地域防災リーダーの重要性 ・地域防災力の向上へ向けて一人ひとりができることなど</p> <p>(場 所) 地域のコミュニティセンター・地域公民館、まちづくりセンター</p> <p>(対象者) 校区自治協議のメンバーをはじめ、校区住民の方々</p>			
<p>【見込まれる事業効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域住民の防災意識の向上、家庭内備蓄物資の推進 ●地域における防災リーダーの存在の重要性を認識していただく。 			
今後の展開・方針			
<ul style="list-style-type: none"> ●校区防災研修会の継続 ●避難所運営委員会の災害対処訓練の実施【避難所運営ゲーム(HUG)】 避難所運営委員会の構成員が実際に避難所運営に関する知識等を習得することを目指す。 			

平成29年度 東区地域活性化支援事業

細事業名	校区の町内割入電子地図作成業務委託		
担当課	託麻まちづくりセンター	事業費	900千円
地域・課題ニーズと見込まれる効果・事業内容			
【地域の現状・課題・ニーズ】			
<ul style="list-style-type: none"> ● 町内自治会など地域団体の役員が活動を進めるうえでは、まずは自らの校区や町内の範囲を把握することが重要であるが、数年で役員が交替する中、その範囲を把握していない役員の方が多く見受けられる。 ● 特に託麻まちづくりセンターの管轄校区においては、自治会長の平均経験年数が1.94年(東区全体平均3.31年、熊本市全体平均3.7年)と平均を大幅に下回っており、地域活動に不慣れな自治会長が多い。 ● 数度の境界変更等により、最新の町内境界線が不明確になっている。 ● 自治会活動の増大化や役員の高齢化により、自治会単独で町内割入のマップを作成することが困難になっている。 ● 民生委員から要支援者の家を把握するために地図がほしいと依頼されたが、著作権の関係でゼンリン地図などの写しを提供することができない。 ● 転入・転出をした市民に対し、お住まいの地域の町内自治会を紹介することがあるが、現在の町内早見表は10年以上更新されておらず、間違いや存在しない住所なども見受けられる。 ● 地震の影響や新興住宅地が多く新たな町内会加入の可能性はあるものの、町内会加入率は低迷している。 			
【事業目的・概要(課題解決のための方策)】			
<p>上記の課題を解決するために、町内自治会の協力のもと、町内及び校区の境界を確定し、著作権フリーの校区の町内割入電子白地図(託麻まちづくりセンター管轄の6校区・53町内自治会)に落としこみを行い、各自治協議会・町内自治会に配布する。また、作成した電子白地図に住所情報を合わせることで校区町内住所早見表及び逆引きを作成する。</p> <p>所要期間:7ヶ月～8ヶ月</p>			
【見込まれる事業効果】			
<ul style="list-style-type: none"> ● 著作権フリーの地図を作成することで、様々な地域団体に提供することができる。 ● 各町内自治会に電子地図を配布することで、自治会長など役員の方に町内の範囲を把握していただくとともに、役員交替時に地図を使ってスムーズに引継ぎをすることができる。 ● 地図データは白地図であるため、防災や子育て、要援護者の把握など、目的に応じた電子地図を作成することができるため、自治会活動だけではなく、様々な地域団体の活動に寄与することができる。 ● A0サイズの地図を各町内に配布することにより、災害時の危険箇所や要支援者の情報を共有することが容易になり、地域防災力の向上に繋がる。 ● 電子地図と併せて校区町内早見表(逆引き)を作成することとしており、区民課等で転入・転出時に正確な自治会を案内することが出来るようになる。 			
今後の展開・方針			
<p>① 町内電子地図の配布により、地域の各種団体がその目的に応じて自ら地図を作成することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 町内自治会: 防犯灯の場所把握、ゴミステーションの場所把握 ● 学校: 通学路安全マップ ● 自主防災クラブ: 災害時の危険場所の把握、防災図上訓練の実施(地域防災力向上に不可欠) ● 民生委員: 要支援者や新生児がいる住宅の把握(地域包括ケアの推進には不可欠) ● 子ども会: 子どもの家の把握 ● 老人会: 対象世帯及び未加入世帯の把握(地域包括ケアの推進には不可欠) <p>② 町内の線引きが確実のものとなると、整備された校区町内早見表を作成することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 異動届出の窓口で自治会長を紹介もしくは情報の引継ぎ等の了承を経る事で、自治会への加入促進を図る <p>③ 電子地図の使用頻度・活用方法など地域に及ぼす効果を検証していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域活動の活性化に有効な手段であるため、東区さらには熊本市全体に広げていく。 			

平成29年度 東区地域活性化支援事業

細事業名	ファシリテーター養成講座		
担当課	秋津まちづくりセンター	事業費	466千円
地域・課題ニーズと見込まれる効果・事業内容			
<p>【地域の現状・課題・ニーズ】</p> <p>秋津まちづくりセンター管内では、ささえりあ桜木・秋津及び地域の事業所(多職種)が中心となり、地域住民と連携してまちづくり(地域包括ケア)について考える「ミナサンカ」を実施している。</p> <p>熊本市地域包括ケアシステム推進方針(平成29年4月策定)に「市民(地域)や事業者等の関係団体、行政など多様な主体が一体となって推進していくことが必要」とあるように、地域包括ケアシステムを推進していくためには「ミナサンカ」のようなさまざまな組織が地域課題について情報共有し、課題解決のために共に考え行動する場が今後も継続して開催される必要がある。</p> <p>「ミナサンカ」では、事業所がファシリテーターとなって会議を運営しているが、ファシリテーター未経験者も多く、「思ったように進行できなかった」「経験がなかったのでとまどった」との意見が多く聞かれた。そこで、これら会議で重要な役割を担う司会者が、現状把握や課題、対処策等の視点を理解し、まちづくりについての知識なども身につけることは、地域での自主自立のまちづくり推進に大きく寄与することから、地域住民などを対象にファシリテーター養成講座を実施するもの。</p>			
<p>【事業目的・概要(課題解決のための方策)】</p> <p>事業目的: 地域包括ケアを推進していくためミナサンカの継続開催を支援する。 ※詳細は別紙参照</p> <p>事業概要: ファシリテーター養成講座を開催(平成29年度3回程度、平成30年、31年度に4回程度を実施)</p> <p>【対象者】 ミナサンカ関係者、まちづくりに興味がある地域住民</p> <p>【内容】 ファシリテーターに必要な知識と技術を養成講座により取得する。また、実際にまちづくりのワークショップ等で実践することでまちづくりにつなげていく。(養成講座を受講して終わりではなく、ミナサンカ等のワークショップで実践することで身につけた技術を活用する機会をつくる)</p>			
<pre> graph TD A["・養成講座での事例発表 ・スキル向上のためのフォー研修等"] --> B["ファシリテーターとしての知識 及び技術の取得"] subgraph C [" "] B end C --> D["地域での実践 (ミナサンカ等)"] D --> E["まちづくり活動への提案"] </pre>			
<p>【見込まれる事業効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアの推進。 ・地域のさまざまな世代の人と人をつなげる場所や機会(ミナサンカ)を設けることによって、人材の発掘が見込める。 ・養成講座受講者が中心となり「ミナサンカ」のようなワークショップを各所で開催できるようになる。まちづくり活動の活発化につながる。 			
今後の展開・方針			
<p>受講者はまちづくりのワークショップ(ミナサンカ等)で実践を行うことで習得した技術を活用する。</p> <p>また、事業は複数年継続(平成31年度まで予定)し、ミナサンカのような住民主体のまちづくり活動を東区全域に波及させるため、まちづくりセンターも情報発信を行っていく。(別紙参照)</p> <p>将来的には校区版のワークショップを開催する。</p>			

平成29年度 東区地域活性化支援事業

細事業名	東区中学生会議		
担当課	東部まちづくりセンター	事業費	265千円

地域・課題ニーズと見込まれる効果・事業内容

【地域の現状・課題・ニーズ】

●地域が抱える課題



担い手不足

- 地域活動に参加しない人が多く、地域のつながりが希薄化している。
- 住民の自治活動についても、新しい担い手不足による役員の高齢化など、活動継続に苦労している現状がある。
- 地域活動への不参加の原因として考えられるのは、「きっかけ」。子ども会を終え、地域とのつながりが無くなってしまふ中学生と、その保護者世代に対する地域活動参加への意識付けが必要である。

事業目的

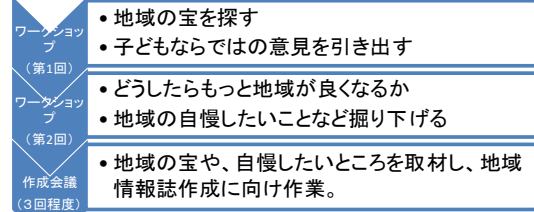
小学生と保護者は、子ども会などを通して、地域活動に参加することが多いが、中学、高校と進むにつれ地域との繋がりも薄くなっている。

「地域を知る」「地域のために自分ができることを考える」ような体験を通じて、地域の中での生活を見つめなおし、地域社会の一員として自覚を持ち、郷土愛を深めてもらうことを目的とする。また、子どもの取り組みを通じて、その親世代にも地域についての理解を深め、地域活動への参加意識を高めることを目的とする。

事業概要

- ①「地域を良くする」「良い地域で暮らす」「地域の魅力」などをテーマに、中学生を対象（対象者：中学1～2年 ※定員20名）としたワークショップを行う（2回）。
- ②ワークショップで出た情報を元に、広く東区民に伝えたいものなどを抽出し、取材し、情報誌へまとめる。（印刷枚数：2,000枚程度 配布先は区役所、学校、各まちづくりセンター、地域団体を想定）
- ③取りまとめた意見を区長への提言として発表する。

事業概要イメージ



地域情報誌(フリーペーパー)の作成・配布

区長への提言

【見込まれる事業効果】

地域活動＝ライフワーク

- 10年後子ども達が大人になった時、地域活動は特別なことではなく、当たり前前のライフワークとして意識付けられる。

地域活動の楽しさを知る

- 地域のためにできることを、自ら考え、同世代同士力を合わせて成し遂げる楽しさを知ってもらう。

親世代へのアプローチ

- 子ども達が頑張っている姿を地域に見せることで、30～50代の親世代にも地域活動への意識付けになる。

今後の展開・方針

次年度は、東部まちづくりセンター管内3校(湖東、東町、錦ヶ丘)と一緒に、行政・学校・住民が連携した取り組みとなることを目指す。すでに湖東中学校で取り組まれている「地区生徒会」の活動など、優良な取り組みを支援し、活動の更なる活性化を図ると共に、他校区にも取り組みを広げていく。

東区民祭りなどにおいて、事例発表の機会を設け、意識を持って地域活動を行っている中学生や、取り組みを紹介し、活動を東区全体に広げていく。

平成29年度 東区地域活性化支援事業

細事業名	子ども会活性化事業						
担当課	東部まちづくりセンター	事業費	218千円				
地域・課題ニーズと見込まれる効果・事業内容							
【地域の現状・課題・ニーズ】							
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 現状 <p>年々子ども会への加入率が下がってきている。 要因として、高学年になると部活動などにより、土日でも活動に参加ができない実情がある。また、親の役員を担う負担感や、活動内容が子ども会の存在の本質とずれているのではないかと、の疑念が加入率低下に拍車をかけている。 しかしながら、子どもに色々な経験や体験をさせたいと思っている保護者は多い。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 課題等 <p>子ども会の必要性を感じつつも、多様化するライフスタイルや、子どもを取り巻く環境の変化などが相まって、従来の子ども会のやり方では、役員の負担感が増加し、活動がマンネリ化。結果、子どもの活動への参加が減り、保護者がやりがいを感しないという負のスパイラルに陥っている。 また、1年ごとに役員が変わるため、反省点が生かされず例年の行事を踏襲しているだけの状態にある。 子ども会の役員は、地域活動に主体的に参加する最初の機会となることが多いことから、その経験が、その後の地域活動への参加に大きく影響を与える。負担感が大きい場合、その後の地域活動への参加が進まない。</p> </div>							
【事業目的・概要（課題解決のための方策）】							
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 事業目的 <p>子ども会活動の原点に立ち返り、地域で子どもを育てること、子ども同士の異年齢間交流の必要性や、地域活動のつながりの重要性を再認識してもらう。 また、意見交換により他の子供会との横のつながりを作ってもらい、より良い活動のための情報交換の場をつくる。 役員の負担感軽減や、楽しい活動の実現による子ども会活動の活性化により、その後の地域活動への参加につながる人材育成・確保を図る。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 事業概要 </div>							
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; background-color: #4a86e8; color: white; padding: 10px; text-align: center;">①子ども会活動の手引き（仮）の作成</td> <td style="width: 50%; background-color: #4a86e8; color: white; padding: 10px; text-align: center;">②子どもプレイリーダーによる企画の実施</td> </tr> <tr> <td style="padding: 10px;"> <p>内容：良かったイベントや行事の概要や予算などをまとめる。 お知らせや、募集チラシなどのテンプレートの作成。 対象：現在子ども会の役員をしている保護者20名程度 手引きは100部ほど作成し、作成に携わった子ども会に配布。 また、東区管内の公民館に設置する。</p> </td> <td style="padding: 10px;"> <p>内容：子ども達自身が子ども会に求めるもの、魅力ある活動を企画、運営する。(例)職業体験、遊び場作りなど。 対象：小学4～6年生 10名程度 企画した内容の実施を行う際は、別途募集を行う。</p> </td> </tr> </table>				①子ども会活動の手引き（仮）の作成	②子どもプレイリーダーによる企画の実施	<p>内容：良かったイベントや行事の概要や予算などをまとめる。 お知らせや、募集チラシなどのテンプレートの作成。 対象：現在子ども会の役員をしている保護者20名程度 手引きは100部ほど作成し、作成に携わった子ども会に配布。 また、東区管内の公民館に設置する。</p>	<p>内容：子ども達自身が子ども会に求めるもの、魅力ある活動を企画、運営する。(例)職業体験、遊び場作りなど。 対象：小学4～6年生 10名程度 企画した内容の実施を行う際は、別途募集を行う。</p>
①子ども会活動の手引き（仮）の作成	②子どもプレイリーダーによる企画の実施						
<p>内容：良かったイベントや行事の概要や予算などをまとめる。 お知らせや、募集チラシなどのテンプレートの作成。 対象：現在子ども会の役員をしている保護者20名程度 手引きは100部ほど作成し、作成に携わった子ども会に配布。 また、東区管内の公民館に設置する。</p>	<p>内容：子ども達自身が子ども会に求めるもの、魅力ある活動を企画、運営する。(例)職業体験、遊び場作りなど。 対象：小学4～6年生 10名程度 企画した内容の実施を行う際は、別途募集を行う。</p>						
【見込まれる事業効果】							
活動の広がり	子ども会同士の横のつながり	子ども会の意義の再確認	親世代へのアプローチ				
<ul style="list-style-type: none"> •これまでの活動にとらわれることなく、新たな取り組みを取り入れられ、PCなどが苦手な人でも気軽に役員になれる。 	<ul style="list-style-type: none"> •情報交換や、共同で事業を行うことで、負担感や、やらされ感を軽減する。 	<ul style="list-style-type: none"> •子ども自身が楽しんでいる姿を保護者が確認することで、子ども会の意義を感じられ、役員のモチベーション向上に繋がる。 	<ul style="list-style-type: none"> •子ども達が頑張っている姿を地域に見せることで、30～50代の親世代にも地域活動への意識付けになる。 				
今後の展開・方針							
<p>子ども会役員の意見交換の場のような形で、数年継続していき、子ども会活動への正しい意識醸成を図る。 手引きの作成については、生涯学習課で作成している手引きの中に組入れ、全市的に広げていく。</p>							

平成29年度 東区地域活性化支援事業

細事業名	平成29年度 東区まちづくりシンポジウム『情熱東区 ～未来を創る地域の力～』		
担当課	東部・託麻・秋津まちづくりセンター 福祉課 総務企画課 保健子ども課	事業費	327千円
地域・課題ニーズと見込まれる効果・事業内容			
<p>【地域の現状・課題・ニーズ】</p> <p>現状：平成24年度に区役所が設置され、より住民に近いところでそれぞれの区の特徴を生かしたまちづくりがスタートとした。特に、健康を切り口とした「校区単位の健康まちづくり事業」は、全市的な取り組みであり、東区においては「産・学・公・民・医療連携」をその基盤として推進してきた。</p> <p>その過程のなかで、健康づくりの意識の醸成と共に、「健康まちづくり推進員協議会」の設立や、「東区健康を区民とつくるボランティア医師・歯科医師の会」の発足等、新たなネットワークを生み出し、さらに、昨年度の熊本地震においては、これまで継続してきた健康まちづくり活動が円滑な健康危機管理活動へとつながった。本年度からは、将来の更なる人口減少、少子高齢化社会に向けて「おたがいさま」で支えあう気運を醸成し、情報共有の原則のもと、市民参画と協働による自主、自立のまちづくりを行政が支え、地域力の維持・向上を目指すため、新たに「まちづくりセンター」が設置され、地域担当職員が配置された。</p> <p>東区役所においても、本年度の主要施策として「地域包括ケアシステムの仕組みづくりの推進」を掲げており、その達成のために、住民主体のまちづくり支援と地域に根ざした取り組みを推進し、高齢者のみならず、子どもや障がい者等を地域全体で見守りささえあう体制の構築をめざしているところ。</p> <p>それらを達成するため、東区区内において「東区まちづくり等区内推進体制」が新たに整備され、また、地域においても、日常生活圏域や小学校区単位で、行政、地域包括支援センターや事業所等の支援を受けながら、住民主体で特徴のあるまちづくりの取り組みがすでに始まっている。</p> <p>今後、これまでの健康を切り口とした「健康まちづくり」を「地域包括ケア」と一体的にとらえ、東区の「まちづくり」として発展させていく段階に来ている。</p> <p>課題① 東区のまちづくりについて、区役所職員・関係事業所・地域住民の共通認識が充分ではない。 ② 「地域包括ケア」の取り組み状況に地域差がある。</p>			
<p>【事業目的・概要(課題解決のための方策)】</p> <p>事業名 (仮称)「平成29年度 東区まちづくりシンポジウム」 タイトル 『情熱東区 ～未来を創る地域の力～』 目的 地域包括ケア推進に関する講演及び管内における先駆的事例や健康まちづくり活動の報告等を通して、市民参画と協働による自主、自立のまちづくりを推進する。 目標 ・「地域包括ケア」について、健康や防災力向上も含め広く「まちづくり」として捉えることができる。 ・「地域包括ケア」を推進するうえで、それぞれの役割や取り組みの実際を知り、具体的取り組みへの動機付けとなる。 日程 平成30年2月4日(日)午後 ※予定 会場 県立大学 大ホール ※予定 対象 自治協議会等各組織役員、小中高大学、生活習慣病連携医療機関、民間の関係機関、東区健康づくりボランティア(健康まちづくり推進員、食生活改善推進員、8020推進員)、東区住民 約300人 内容 第一部 講演 テーマ「住みよい地域は自分たちで創ろう」(仮) 講師：医療経済研究機構 研究総務部次長 服部 真治氏 第二部 シンポジウム 地域からの活動報告(3名) コーディネーター 水野 直樹さん</p>			
<p>【見込まれる事業効果】</p> <p>・東区のまちづくりについて、区役所職員・関係事業所・地域住民の共通認識が図られ、それぞれの果たすべき役割を認識する機会となる。 ・地域、事業所、関係組織の具体的な取り組みを知ること、各校区の今後のまちづくり活動推進の動機付けが出来る。</p>			
今後の展開・方針			
<p>今回のシンポジウムを、東区まちづくり推進のキックオフ事業として位置づける。 今後は、地域課題に応じて、各地域の特性や強みを生かしながら、住民のまちづくりへの主体的参加と協働による各種企画の開催をめざす。 (※各種企画とは、地域住民の自主・自立の取り組みを推進または発信するための報告会や集会、ワークショップの開催等、地域の実状に応じまちづくりを推進する企画)</p>			